

ふくりゅう

特定非営利活動法人
日本下水文化研究会会報

発行責任者 酒井彰(運営委員会代表)

平成17年4月25日

通巻42号

特定非営利活動法人日本下水文化研究会第9回総会のお知らせ

日本下水文化研究会では下記のとおり平成17年度総会(第9回)を下記のとおり開催いたします。特定非営利活動法人認証を受けて以来6年目を迎えます。ご承知のように、昨年度は海外技術協力事業に着手し、所定の目標を達成することができました。また、し尿分科会、関西支部の活動も非常に活発でした。

つきましては、今回の総会では、従来のように講師をお迎えしての記念講演は行わず、分科会、支部の活動について会員の皆様へお伝えする場として企画いたしました。

貴重な会費を活用しての諸活動の成果をお伝えする機

会にしたいと思いますので、万障お繰り合わせのうえご参集いただきますようお願い申し上げます。なお、どうしても参加いただけない会員の皆様は、委任状の提出をお願いいたします。

記

日時 平成17年5月21日 13:30~15:00

場所 日本水道会館 7階会議室

千代田区九段南 4-8-9

※ 総会終了後懇親会を開催いたします。

2004 中川金治翁を偲ぶ会に参加して

昨年11月23日夕刻、私たちは奥多摩のもっと奥にある丹波山村という静かな村に着きました。碧い水をたたえた奥多摩湖は名残の紅葉を映して夕陽に輝いています。ここは東京の水源地の村、中川金治さんは、明治から昭和の初めにかけて村人とともに水源林を守り『山の御爺』と呼ばれた人で、後に中川さんを慕う人々によって富士山をのぞむサオラ峠に中川神社が建てられました。

2003年、古くなった木造の中川神社の祠が建て替えられることになり、以前からのよきご縁によって当研究会も協力させていただき、石造りの立派な祠が完成しました。

2004年の『中川金治翁を偲ぶ会』は、会長の伊藤巖さん経営の民宿『たちばな』において、中川さんの親戚の方、村長さん、中川さんを知る長老の方、村会議員、登山家あこがれの宿『三条の湯』のご主人など多彩な方々の参加を得て開かれました。当研究会からは、偲ぶ会副会長の藤森正法さんとその魅力あふれる山のお仲間や友人、学生時代からの登山の達人谷口さん、京都から稲場夫妻が参加しました。

あたたかなまなざしの中川さんの大きな写真が中央に

掲げられ、目の前のお膳には村の方の心尽くしの手作りのご馳走が並び、来賓のご挨拶と献杯で会が始まりました。奥さんたち手作りのコンニャク、手打ち蕎麦、煮物、酢の物、焼き物、この日のために猟師さんが狩をして下さったというシカ肉、新鮮な馬肉などおいしそうなものばかり。「馬と鹿だ!」「気にしない、気にしない。」などとおしく楽しくいただきました。

民話の紙芝居

地形的に都会から遠く、厳しくも美しい自然にめぐまれた丹波山村は、伝説や民話の宝庫でもあります。伊藤巖さんや木下勲さんが問わず語りに話して下さったお話をもとにした創作紙芝居、丹波山村シリーズ第二作目は『龍魂淵の伝説』という、龍魂淵に棲む凛々しい龍の若者と可憐な村娘の純愛を中心に、竜巻、大雨などの自然現象や、丹波デンデーロなど村の地名を織り込んだ雄大な物語で、感動的な展開に拍手が起きました。このシリーズが村の民話研究家の方々とともにずっと続いていきますように。

祠のあるサオラ峠へ

翌朝はすばらしいお天気! いよいよ祠のあるサオラ峠



中川さんの写真を囲んで



紙芝居 龍魂淵の伝説

に登ります。脚に覚えのある方は徒歩で急峻な山道を登り、その他の人は東京都水源林事務所新設のモノレールに伊藤さんのご尽力で特別に乗せていただけることになりました。山の専門家用のモノレールは、ヒューンな状態

で止まったりして大迫力ですが、徒歩よりはずっとずっと楽です。落葉松や三つ又の木、無数の滝、シカに樹皮を食べられツルツルになった木の幹などに心惹かれながらサオラ峠に着くと、中川神社の石の祠が私たちを迎えてくれました。そして、山々の向こうに雪を頂いた富士山の姿が見えると思わず大きな喚声と拍手が!

神社に参拝し、中川さんに地酒をささげ、民宿の奥さん手作りのおいしいお弁当をいただいたあと、猟師さんが三発の祝砲を献じ、丹波山締めでキリリと締めて行事が終了しました。

この日のためにこれほどの準備を下さった丹波山村の方々、熱心に誘っていただき愛車で村まで連れてきて下さった藤森さん、楽しい宿のお仲間の皆さん。誠実であたたかな多くの人の心に触れた水源の村への旅は、人の手と心によって守られている自然の尊さを教えてもらった旅もありました。帰り際に「またいつでも来て下さいよ。」と笑顔で言ってくれた村の方の言葉をいつも思い出し励まされています。

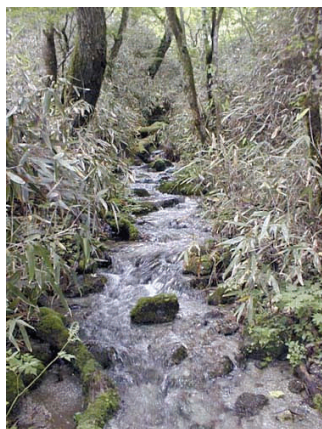
(蓼倉虫 b)



サオラ峠・中川神社前にて

2005年 多摩源流祭りのご案内

第19回多摩川源流祭が奥多摩の山梨県小菅村主催で行われます。これに合わせて日本下水文化研究会では、下記の要領で参加いたします。例年のように日本一のお松炊き、お祝いの打ち上げ花火が行われる予定です。翌日晴天ならば、有志により、都民の水道水源である笠取山の水干(みずひ)まで、おにぎりをもって軽いハイキング(登り約2時間)を行う予定です。老若男女の皆さん、ふるってご参加ください。



記

日時 平成17年5月4日～5日(1泊2日)

集合: 4日のAM10時

JR八王子駅北口タクシー乗り場

解散: 同所、5日PM6時(予定)
宿 山梨県小菅村「山水館」(やまみずかん)
TEL 0428-87-0533
費用 宿泊費等(アルコール、つまみ、夕食、朝食、おにぎり):
男性=8,000円、女性=7,000円、
子供=4,000円
交通費等: 大人2,000円、子供1,000円
持ち物 翌日水干へ行く人はセーター、傘、軍手、水筒、からのボトル、サブザック(靴は運動靴でOK)

お問い合わせ・申込み

藤森さんまで TEL: 090-4132-5501

FAX: 03-3801-4848

参加希望の方は、お名前、住所、連絡先電話番号、参加人数、ご要望(もしあれば)を藤森さん宛てFAXで。

以上

「エコ・グリーンテック2005」開催のお知らせ

第9回環境産業展・エコ・グリーンテックが開催されます。今回の展示会では「緑豊かな環境技術」と協働し、より豊かな生活環境をつくりだす「環境福祉・ヒーリング技術の創造」というテーマを加えて構成されているとのことです。(http://www.interaction.co.jp 参照)

なお、セミナールームでは、本会員、高橋邦夫氏「河川改修と水辺デザイン要素について」、高村哲氏「河川修景緑化を生かす具体的な設計手法」(5/26、13:00～16:30、

セミナールーム A) の講演があります。

記

会期: 2005年5月25日(水)～27日(金)

10:00～17:00

会場: 東京ビックサイト(東京国際展示場)西4ホール
会場へのアクセス: ゆりかもめ(新交通)・国際展示場正門駅下車すぐ、りんかい線・国際展示場駅徒歩約7分 など

特別展「肥やしのチカラ」

肥やしのむかしと肥やしのみらいー」を見学して

平成17年4月9日尿尿研究部会の催しとして、「葛飾区郷土と天文の博物館」見学会を催した。参加者は15名。

3時に京成線のお花茶屋駅に集合。駅から北へ8分ほど旧曳舟川の緑道に沿って歩くと、屋上にドームを乗せた一目でそれとわかる「葛飾区郷土と天文の博物館」に着いた。特別展「肥やしのチカラ」と書かれた垂れ幕が私たちを出迎えてくれる。ここは、郷土史コーナーとプラネタリウムを併設した博物館である。思っていたより規模の大きな博物館で、常設展示会場には、2分の1の縮尺の大きな肥舟が置いてあった。地元の船大工に作ってもらったとのこと。まず3時半からのプラネタリウム。いまでは少なくなったプラネタリウムで夢の世界に。解説といい、話題といいこれも素晴らしい。是非ご覧になることをお勧めしますが報告は割愛します。

そしてお目当ての特別展の会場に入ると、下肥値段表を



いろいろな形の肥桶

はじめとした古文書がずらりと並んでいる。学芸員の堀さん（今度定例研究会例会で講話してく下さいます。）が解説して下さい。気がつくとも堀さんの解説に引き込まれた一般のたくさんの聞き手で大きな輪になっていた。

ここ葛飾区は、近年まで都市近郊農村として、下肥を農地の肥料として利用していた土地柄である。先ほどの船大工をはじめ、下肥の仲買人、肥舟の船頭たちが生活していた。もちろん、下肥を使う農家の人たちも。展示図録を読むと、多くの聞き書きで構成されており、自ずと臨場感が醸し出されている。

展示物で目立つのは、いろいろな形状の肥桶。きのうまで実際に使っていたのではと思われるような物もある。それと、便器のアラカルト。私たち研究会が夢にまでみた「二穴式便器」の実物も。お宝満載の展示である。その中に、当研究会の関野勉氏が提供したトイレグッズと、森田英樹氏蔵書の各種珍本が展示ケースに守られて鎮座していた。

ほかに、図録には鈴木和雄氏の体験記「海洋投棄船に乗って」、佐野丈夫氏のイラスト「南千住尿尿取扱所」、「東武鉄道の尿尿貨物輸送」、森田、関野両氏所蔵の浮世絵が、それぞれ掲載されている。また、当研究会が紹介・仲介したのものとしては、他に地元に着した施設である砂町水再生センターからの肥桶、コンポストのパッケージが、小菅水再生センターからの下水処理施設の模型や下水汚泥の資源化物が、出展されていた。当研究会の刊行図書の展示・頒布コーナーも用意されていたことを申し添える。堀さんいわく、この企画展示はきわめて好評で、また、1人の人が滞在する時間もきわめて長いという。また、尿尿研究会が紹介した昭和35年の厚生省監修の傑作映画「尿尿のゆくえ」は「25分という長さにもかかわらず、途中で帰る人は殆どいないくらいの目玉です。」と堀さんが言われてたのが嬉しかった。なお、この特別展に付随して講演会が3回開かれるが、このうち2回は平田純一氏と森田英樹氏が行うことになっている（森田氏の講演は5月5日）。

更なる情報は「葛飾区郷土と天文の博物館」のHPから得てください。URLは

<http://www.city.katsushika.tokyo.jp/museum/>です。

本展示は5月8日まで行われる。展示室の入館料は100円、プラネタリウムは350円、金曜日の夜には天体望遠鏡で天体観測も出来るという。是非ご覧になることをお勧めする。お花茶屋駅のとよりは堀切菖蒲園駅、ここでは季節にはそろそろの菖蒲園もお勧めですが、お花茶屋駅の駅で伺ったらまだ時期は分からないということ（これは当たり前）。一緒にご覧になれるといいのだが、情報は調べてください。この日も恒例の見学後の懇親会が催された。楽しい充実した企画だったと思う。（運営委員 石井記）



参加された皆さん



第33回定例研究会・報告

日本下水文化研究会の第33回定例研究会（屎尿研究会例会とのジョイント）が、2月27日（日）午前10時より東京・飯田橋の東京ボランティア・市民活動センター会議室で行われました。講師は本会監事の柳下重雄氏で、演題は「江戸の下掃除（便所の汲取り）代金の高騰にみる行政の対応」でした。柳下氏は当研究会の下水文化叢書1「江戸 神田の下水」の著者で、江戸の下水に関する古文書を活字化・口語訳し、解説を加えております。

今回は、町方と奉行所（行政）との間の下掃除代金に係わるやりとりを記録した江戸古文書を解説していただきました。講演の骨子は以下の通りです。

- ① 下掃除人から町年寄へ「屎尿の汲取り代金値下げ」の訴えが、寛政2年（1790）3月にあった。町年寄は町奉行の配下で名主たちを統括し、3家が交代で月番を勤めた。
- ② この訴状に対して名主たちから反論が出た。名主は平均6〜7ヶ町を支配していた。
- ③ 両者の言い分を勘案して、当初、勘定奉行が折衷案を出したが、双方譲らずまとまらなかった。
- ④ そこで今度は町奉行が、具体的な解決に向けて当事者同士で話し合いをするよう、双方に対し強く働きかけを行う。
- ⑤ 名主たちが値下げの状況を回答する（寛政3年2月）。江戸市中の大家（2万1千余人）のうち、値下げしたものの：38%、従来どおりの金額を下掃除人が持つてくるものの：9%、無料又は農作物を受け取っているものの：5%、話し合いがつかないものの：5%、値下げされては

困るものの4%、・・・であったという。「家主が下掃除人を自由に変えられることは今まで通りとして欲しい」と書き添えている。

- ⑥ 下掃除人たちからの突き上げが名主たちにあたりする中で、おおむね解決したのでもう手を引きたい旨の名主たちの申し出に対して、町奉行は完全に解決するまで話し合うよう指示する。
- ⑦ 再度、下掃除代金の値下げ状況を名主たちが町奉行に報告する（寛政3年10月）。2万人弱の大家のうち、話し合いがついたもの：72%、無料又は農作物を受け取っているもの：7%、・・・であった。
- ⑧ 下掃除代金が値上がりした原因としては、農作物増産のための肥料必要量の増加、大家の方が下掃除人より上位の力関係、下肥商人の出現による価格のつり上げなどが考えられる。
- ⑨ 幕末の天保14年の奉行所のお触れでは、野菜の値段の高騰を理由に、「今の下掃除代金を1割引き下げること」と、具体的な数字を挙げて指示している。この頃になると、民と民との話し合いだけでは解決がつかない状況になってきたことがうかがえる。

なお、過日、2月28日に柳下氏の手になる下水文化叢書8「江戸の下水道を探る」（享保・明和・安永の古文書から）が刊行されました。江戸の下水道の実情を知るうえで貴重な手書きの史料を口語訳・解説された労作です。

（屎尿研究会会長 地田修一 記）

平成17年度屎尿研究会例会のご案内

平成17年度の屎尿研究会例会の予定につきましてご案内いたします。なお、第38回、39回は本会定例研究会とのジョイントとして開催する予定です。

第35回 6月3日（金） 安彦四郎氏（元 東京都下水道局）「劇映画にみる下水道の世界」

邦画、洋画に精通する講話者が、下水道施設を舞台にした劇映画について、ビデオを交えながら解説し、論評を加える。

第36回 7月 安藤茂氏（本会会員）「市井にあつて環境衛生を考えた西原脩三氏を語る」

西原衛生工業所の創業者・西原脩三氏の屎尿処理、浄化槽、下水処理への熱い思いを辿り、この分野の黎明期を探る。

第37回 9月 稲村光郎氏（本会会員）「大正8年の屎尿問題―その定量的検討」

屎尿が有価物から廃棄物へと変貌する節目となる大正8年頃 of 屎尿処分問題を、屎尿の発生量、取引量、掃除賃、肥料としての価格などに基つき定量的に検討する。

第38回 10月 堀充宏氏（葛飾区郷土と天文の博物館学芸員）「特別展・下肥の力を企画して」（仮題）

3月20日～5月8日に開催した特別展を実施するに当たっての苦労話や後日談そして都市と農業との今後の関係についての展望を講話。

第39回 12月 上田恵一氏（元 昭和エンジニアリング株）

「ヨルダンにおける下水処理水の灌がい用水化―JICAシニアボランティア活動に参加して」定年退職後にシニアとして海外で活動した経験を語ると共に、中東の直近の状況を報告する。

第40回 平成18年年3月 関野勉氏（本会会員）「トイレのマナー・アラカルト」（仮題）

仏教、キリスト教、イスラム教などの影響を色濃く受けているトイレのマナーについてのいろいろな話。

会場はいずれも東京・飯田橋の東京ボランティア・市民活動センター（TEL03-3235-1171）の会議室を予定しています。

名誉「会員」規定について

運営委員 椿本祐弘

問題発生経緯

一昨年の総会において、定款7条（会員）第1項について、従来「本会の会員は正会員と賛助会員とし…」と規定していたものを「本会の会員は名誉会員、正会員及び賛助会員とし…」とする改正案をお諮りし、可決していただきました。ところが、NPO法（特定非営利活動促進法）第25条第2項（「定款の変更は、所轄庁の認証を受けなければ、その効力を生じない。」）に基づき、所轄庁である東京都に定款変更の認証を求めたところ、新たに加えた「名誉会員」の定義規定が必要である、という理由で認証を受けることができませんでした。すなわち、この定款の「名誉会員」規定については、総会において議決されたものの、「効力」を生じていないことになります。

このことに対する対応については、平成16年3月22日開催の平成15年度第12回運営委員会において、「名誉会員については定款改正によらず、理事会決議で認めるということとする。別途の定款変更が必要になったときに併せて改正作業を行う。」ということに決定されています。この点については、定款改正について可決していただいた会員に対する説明責任に欠けるところがあったことをお詫びいたしますとともに、ここに、その後の検討概要について報告させていただく次第です。

規定についての問題点

その後、さらに検討したところ、次のような問題点が出てきました。

- ①名誉会員について、定款第7条に規定する「会員」の一種とした場合、第8条（入会）、第10条（退会）の規定についても改正の必要がでてくるのではないかと。
- ②さらに、第9条（会費）、第27条（総会の定足数）、第28条（総会の議決）についても、その改正の是非について検討する必要がある。

廃棄物学会の例

廃棄物学会会則の関係規定は以下のようになっています。すなわち、名誉会員については、会費納入不要とともに、総会の議決権を与えていません。

「第6条（種別） この学会の会員は次のとおりとする。

- (1) 正会員 この学会の目的に賛同して入会した個人
- (2) 学生会員 この学会の目的に賛同し、正会員の推薦を受けて入会した学生
- (3) 公益会員 この学会の目的に賛同して入会した官公庁若しくは公益団体等
- (4) 賛助会員 この学会の事業を援助する団体、法人若しくは個人
- (5) 登録団体会員 この学会の目的に賛同して登録した団体（以下「登録団体」という。）に所属する者で、入会した個人
- (6) 名誉会員 この学会に対し、特に功労のあった正会員、又は廃棄物研究について、特に顕著な功績のあった者で総会において推薦された者」

「第7条（入会） この学会に入会しようとする者は、所定の入会申込書を提出し、理事会の承認を得なければなら

ない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。

2（略）」

「第8条（会費） 会員は別に定めるところにより、会費を納入しなければならない。

2 名誉会員は、会費を納めることを要しない。

3（略）」

「第10条（退会） 会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届を会長に提出しなければならない。」

「第25条（総会の定足数等） 総会は、正会員現在数の4分の1以上の者の出席がなければ議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事について書面をもってあらかじめ意志を表示した者、及び他の正会員を代理人として表決を委任した者は、出席とみなす。

2 総会の議事は、この会則に別に定めるもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。」

検討

規定するとすれば、廃棄物学会会則の例に倣うことが考えられる。この場合、本会定款については、定款第7条（会員種別）とともに、第8条（入会）も改正する必要がある。会費、総会議決権については、現行規定の（反対）解釈による運用で足りる。

私見

- ①「名誉会員」についての規定はNPO法第11条に定める定款の必要的記載事項とは考えられないので、定款に規定する絶対的必要性はない。「名誉会員」を推薦する必要がある場合は、運営委員会（理事会）が決定し、総会の承認を経ることとすれば足りるのではないかと。
- ②本会現行定款では「顧問」という制度を規定しており（第16条）、「代表が運営委員会の同意を得て委嘱する。」ことになっている。この制度を活用する必要があるのではないかと。
- ③本会現行定款では、総会の定足数、議決権等の算定においては「正会員」のみを対象とすることとしているが、今後「賛助会員」についての取り扱いについて検討する必要がある。なお、現行定款では、「賛助会員」には議決権などを認めないにもかかわらず、第22条（総会の構成）で、「総会は、正会員及び賛助会員をもって構成する。」としており、全体の整合性が保たれていない。
- ④定款において「名誉会員」についての規定をおくとした場合は、「検討」で述べたように、廃棄物学会会則に倣うということが考えられるが、会費納入不要、総会議決権なしというような「会員」は、名称はともかくとして、実体的には「称号」であって、「会員」の種別として「正会員」と並列することには、若干の疑問が残る。すなわち、名誉会員かつ正会員、という立場が生じ得ることからも、論理的には、「会員の種別」として規定するのではなく、別条または別項で独立して規定するべきではないかと考える。

愛・地球博「地球市民村」トイレ体験館への出展のお知らせ

3月25日より「自然の叡智」をテーマに「愛・地球博」が愛知県で開催されています。愛・地球博「地球市民村」(<http://www.global-village.expo2005.or.jp> 参照)は、「持続可能性への学び」をコンセプトに、国内外のNPO、NGOが集い、自然・環境、国際交流・協力などの取組みを来場者が楽しんで学べるプログラムとして発表する場です。国内、海外で活躍するNPO、NGOユニットを公募により選出。毎月5ユニッ

ト、6か月で全30ユニット約80団体が出展する企画です。本会では、日本トイレ協会の主催する「トイレ体験館」(開催は6月の1ヶ月間)への協賛要請に応え、そのテーマである「世界のトイレ事情と活動」の一環として、バングラデシュにおける体験を出展する予定です。なお、展示企画についてはまだ具体化はしておりません。会員の皆様からのアイデアをお待ちしております。

海外活動報告会を開催しました

去る3月26日、地球環境基金の助成を得て、本会が活動してまいりました「バングラデシュ農村地域における衛生改善のための普及啓発活動」の報告会を開催しました。本会評議員、本活動に関係していただいた方、活動参加者など約30名が参加しました。

報告会では、西堀代表評議員からご挨拶をいただいた後、活動経過、トイレ建設、住民意識調査、環境調査、トイレ使用者に対するトレーニングワークショップについて報告しました。その後報告会参加者から忌憚のないご意

見やさまざまなアドバイスをいただきました。分科会では、当日の議論の整理を含めて報告書を作成中です。

本会が組織として海外で活動することは初めての経験でしたが、会員を初めとする多くの方々から様々なご支援をいただき、スタートの段階はクリアできましたが、さらに活動を継続していくうえで、解決しなければならない課題は少なくありません。それは、財政面、組織面、技術面に及んでいます。今後とも、ご支援のほどよろしく願います。(海外技術協力分科会会長 酒井彰 記)

多くの方よりご寄付いただきました

昨年度の会費お支払いの際に多くの方から寄付をいただきました。ここにお名前を掲載し、深謝いたします。このうち(株)日水コン様よりの寄付金と正会員よりの寄付金のうち300千円を海外技術協力事業へ助成させていただきました。【敬称略】

法人会員: 日本上下水道設計㈱¥500,000、(株)日水コン¥100,000

正会員: 相原篤郎、秋葉誠、浅井清、浅岡幸博、朝倉恒夫、麻田幹彦、安部喬、安藤茂、池田勝、石井明男、石川旭、伊藤東洋雄、伊藤陽二、稲場紀久雄、稲村光郎、上原義昭、上山堅義、内田淳也、宇土澤光賢、江藤隆、大澤佳子、大西尚、大庭克世、大齒亮一、奥田照夫、小澤勇太郎、梶ヶ谷勝、片桐幸義、桂川雅信、嘉藤俊博、鎌田修、神吉和夫、亀田宏、河井竹彦、川下好則、川田賢治、河端勝、河村清史、甘長准、菅家啓一、菊地貞夫、北川知正、北山憲、杵島亮治、木下哲、木村淳弘、栗田彰、栗林栄、黒川昌洋、児玉琢郎、小林三樹、小林りょう、駒林行弘、紺野繁幸、斎藤博康、酒井彰、酒井泰、桜井克信、笹尾圭哉子、笹部薫、佐藤八雷、佐野廣一、重岡慎哉、重松正義、柴田

尚、柴田輝男、渋谷四郎、嶋岡隆雄、清水治、清水慧、神保吉次、杉戸大作、鈴木直子、政比呂志、関野勉、妹崎大次郎、添田廣滋、高島昭俊、高橋栄吉、高橋皓二、高橋澄、高橋宏昭、高橋正宏、高橋洋一、武貞一彦、竹島正、武田篤夫、田中重穂、棚橋都、谷口尚弘、玉井義弘、玉木勉、地田修一、中越哲男、露理恵子、寺前美須男、寺道敬守、当津邦雄、中川右近、中西弘、中西正弘、中村正雄、中村幸雄、中村隆一、西堀清六、西村伸一、長谷川清、長谷川健司、八田宏、濱宏、東重雄、氷上克一、平田純一、平野栄一、廣田公治、福田欣宏、藤岡祐子、藤田俊彦、藤本忠利、藤森正法、古澤裕、保坂公人、星野章作、前川浩、前田正博、牧野平太郎、松下行雄、松田旭正、松永一成、松永端静、宮川和則、三輪慎治、村岡治、森下典昭、森島治雄、柳井憲司、柳下重雄、柳田哲雄、山地弘、山出康洋、山野寿男、山村尊房、米田孝 以上

【五十音順】
(以上144名、計¥346,500)

ふくりゅう 通巻42号目次

第9回総会のお知らせ	1
2004中川金治翁を偲ぶ会に参加して	1
2005年多摩源流祭りのご案内 エコグリーンテック2005のお知らせ	2
特別展「肥やしのチカラ」を見学して	3・4
第33回定例研究会・報告 平成17年度尿尿研究会例会のご案内	5
名譽「会員」規定について	5

運営委員会・事務局より

- 本会報とともに平成17年度の会費振込用紙を同封させていただきますので、早急に納入いただきますようお願い申し上げます。また、会費の納入に際しまして、昨年同様寄付金を募らせていただきます。この寄付金は昨年総会におきまして当面海外技術協力事業への助成に当てさせていただくことを決定しておりますので、ご承知おきいただきたく存じます。
- 昨年度決算におきまして、未納の会費が500千円にのぼることがわかりました。ご承知のことと存じますが、会の運営は会費収入によって成り立っておりますので、本年度はこのようなことのなきようお納め願います。
- 先日下水文化叢書第8号を送らせていただきました。本叢書は会員の皆様から広く原稿を募集し、貴重な研究成果を世に広めることを目的に発行するものです。会員の皆様のなかで叢書にふさわしい原稿をお持ちでしたら運営委員会宛お知らせいただきたく存じます。

編集後記 総会準備、2年目に入った海外活動の開始とあわただしいこのごろです。今年の総会では活動状況をより詳しくご報告し、本会活動を支えていただいている会員各位への説明責任に努めたいと考えています。どうかふるってご参加ください。(酒井 彰)

特定非営利活動法人 日本下水文化研究会

〒162-0067 新宿区富久町6-5 NJS富久ビル別館3F
TEL & FAX 03-5363-1129 e-mail: jade@jca.apc.org

「ふくりゅう」では、原稿募集をしております。「水」について思うこと、身近な話題、会に対するご意見やご提案、どのようなことでも結構ですから事務局までお送りください。

ホームページもご覧ください

<http://www.jca.apc.org/jade/index.htm>

関西支部 <http://www1.kcn.ne.jp/~k-atsumi/>